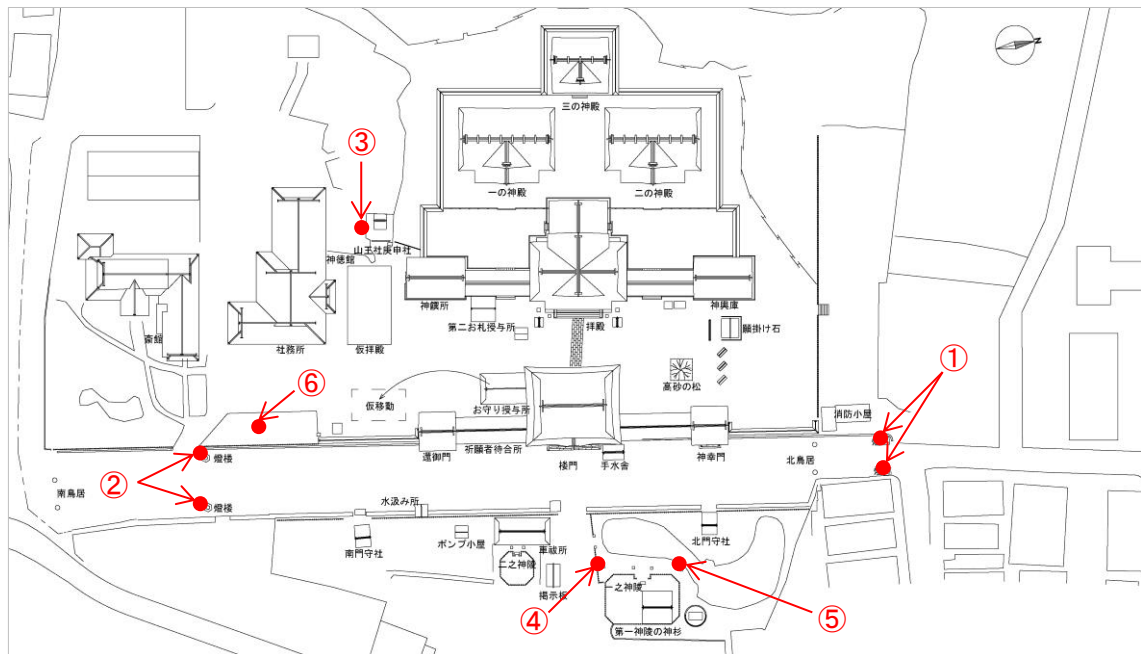


## 修理工事こぼれ話⑱ 境内の石造物（石灯笼編）

今までのコラムでは、阿蘇神社の文化財建造物について紹介してきましたが、今回は境内について紹介したいと思います。境内には灯笼や石碑、玉垣などの石造物がいくつか置かれています。その中には年号が彫られたものもあり、神社の来歴を解明するのに貴重な資料となります。今回はそれらの石造物のうち、石灯笼を紹介していきます。

### 1. 年号が彫られているもの

年号が彫られた灯笼は、6種類見つけることができました。



阿蘇神社 配置図

#### ①北鳥居付近



参道北側 石灯笼 全景



西側の灯笼 北面

これら1対の灯笼には、「紀元二千六百年」と彫られています。これは、初代天皇とされる神武天皇が即位した年を元年とした暦であり、紀元 2600 年は昭和 15 年（西暦 1940 年）にあたります。その年に献灯されたようです。

②南鳥居付近



参道南側 石灯笼 全景



東側の灯笼 南面

豊肥線大分縣大野  
郡細長鐵橋以西ヨ  
リ熊本縣阿蘇郡宮  
地驛ニ至ル八ヶ工  
區間四拾貳哩ニ立  
ル鐵道線路建設工  
事請負紀念  
昭和二年七月建設

これら1対の灯笼の土台に、「昭和二年七月建設」と彫られており、昭和2年（1927）に建てられたものであることがわかります。豊肥本線建設工事の際に建てられたもののようです。

③山王社庚申社横



山王社庚申社 全景

写真右後方の石碑は後日紹介予定です



東面

安政三 矣  
丙辰二月吉祥日



北面

願主備中國  
行者芳藏

山王社庚申社の南側にある灯笼は、安政3年（1856）に現在の岡山県である備中国の方が建立したもののようです。

④一の神陵付近（南）



一の神陵南西 石灯笼 全景



東面

文久元年  
栗林子一郎高一  
辛酉四月上旬

一の神陵の南西の池のほとりに置かれた灯籠は、文久元年（1861）に栗林子一郎高一という方に献灯されたもののようです。

⑤一の神陵付近（北）



一の神陵北西 石灯笼 全景



南面

明治二十九年三月吉日



北面

本多七郎謹建之

一の神陵の北西の池のほとりに置かれた灯籠は、明治 29 年（1896）に本多七郎という方に寄進されたもののようです。

⑥社務所付近



社務所付近 石造物 西面

奉  
寄  
進



北面

常  
夜  
燈



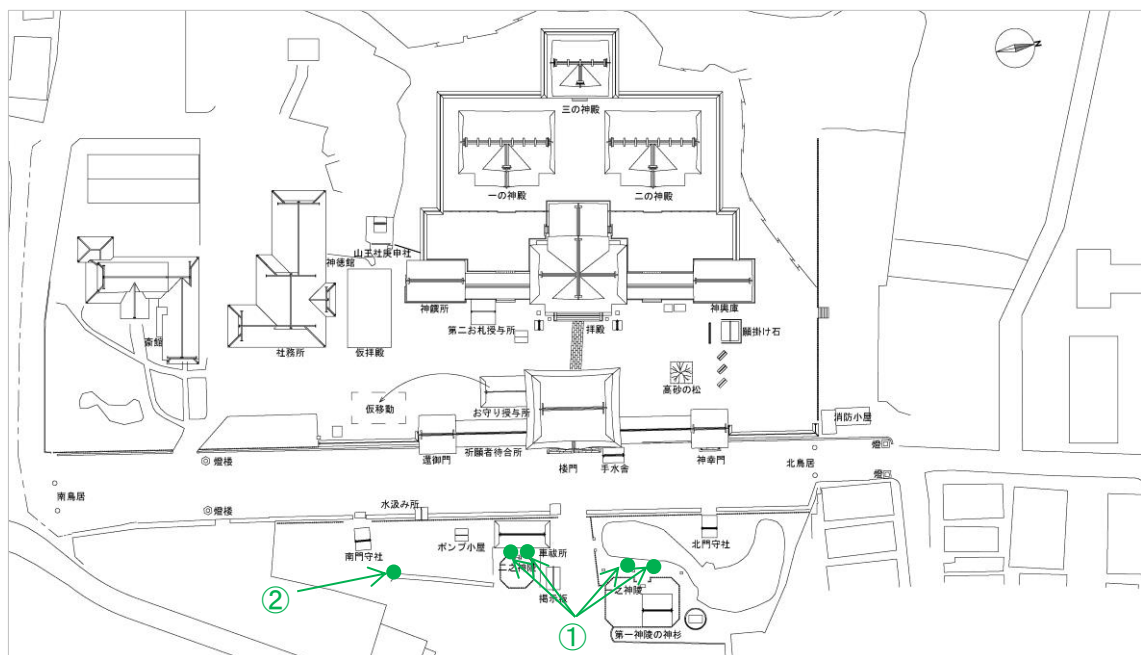
南面

文  
化  
二  
年  
丑  
九  
月  
吉  
日

社務所東側の植木近くにある石造物は、北面に「常夜燈」と彫られているため、石灯籠の竿部分だった可能性があり、ひとまずここに分類しています。文化2年（1805）に寄進されたもののようです。

2. 年号の彫られていないもの

年号が彫られていないものは、2種類見つけることができました。



阿蘇神社 配置図

## ①神陵前



一の神陵前 石灯笼



二の神陵前 石灯笼

多くの寄進者のお名前が彫られています。年号は見つけることができませんでした。他のものに比べ、全体的に角ばった形状をしています。

## ②南門守社後方



南門守社後方 石灯笼

竿のみ残っていると思われるものとは逆に、上部のみ残っているものです。いつからここに所在しているか気になるところです。

以上、境内の石灯笼を見てきました。一番古いものは文化2年(1805)のものでしたが、阿蘇神社で現存する最も古い社殿である一の神殿が天保10年(1839)造営開始であるため、それよりも30年以上古いものであることがわかりました。また、他の石灯笼も寄進・献灯によって置かれたものであることもわかり、いつの時代も阿蘇神社が信仰を集めていたことがみてとれます。

阿蘇神社には他にも石造物があります。次回以降、他の石造物も紹介していく予定です。  
(石田 陽是)